

## 新町誕生から5年 魅力ある洞爺湖町をめぐして

**新** 年明けましておめでとようございませう。

今年も町民の皆さまにとつて良い年でありますように、心からお祈り申し上げます。また日頃の行政へのご支援、ご協力に対し、深く感謝申し上げます。

昨年は、東日本大震災を始め、台風被害など自然の猛威にさらされた1年でした。

特に3月11日の東日本大震災の発生は、多くの犠牲者をもたらした。故郷そのものを奪いとつて行きました。10カ月が経過した現在も、復興への見通しもつかず、故郷を離れ、不安を抱えながら生活している人も少なくありません。

この震災では、当町も養殖施設や養殖ホタテなどの漁業被害のほか、観光業についても、海外からの観光客の大幅な減少と国内の自粛ムードが加わり、大きな影響を被りました。

このような状況を克服するため、昨年は新しいタイプのイベントや「食」を通じた事業で積極的に洞爺湖町の魅力を発信

してきました。

若者をターゲットにした「TOYAKO マンガ・アニメフェスタ」は、2回目を迎え、約7,000人の若者が洞爺湖温泉街に集うほどのイベントへ成長しました。

秋に開かれた「第2回日本ジオパーク全国大会洞爺湖有珠山大会」では、ジオパークと観光という、新しい観光のあり方が論議され、延べ2,000人が参加しました。

洞爺湖町の多種多様な農産物と観光を結びつける事業も成果を上げつつあります。地場産品によるメニュー開発や洞爺湖町地場産品協同組合の結成など魅力ある「食」の取組みを通じて、当町の両輪である、観光と農林水産業の振興を推し進めていきたいと考えています。

これらの事業を下支えする財政基盤につきましては、平成20年度決算で、財政健全化団体となり、この間、財政健全化計画にもとづいて、起債事業の抑制や人件費の削減、行財政改革な

どを推し進めてきたところですので、その結果今年度決算をもって、計画より1年早い財政健全化団体からの脱却が、現実となりました。しかしながら、未だ財政基盤が強固とはいえず、引き続き健全化を推進していく必要がありますと考える。

人口減少、高齢化が進む中で、魅力あふれるまちづくりとともに、「ちよこつとぐらし」や起業家への環境づくりなど、具体的な定住策や空き店舗対策にも力を注いできましたが、その輪は、徐々に広がってきているところではあります。

新町が誕生して5年が経過しました。当初計画した「まちづくり総合計画」も中間年となり、両地区の均衡ある発展を目指し、総点検の中で見直すものは、見直していきたいと考えています。町民皆様のご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。

本年が町民皆様さんにとって、すこやかで、豊かな1年となるようご祈念し、年頭のご挨拶といたします。



町長 真屋敏春

でとうございます